

大同大学

社会参画型授業や海外の大学との交流といった実践的教育プログラムにより産業の発展に寄与する人材を育成する

大同大学

<http://www.daido-it.ac.jp/>

所在地: 愛知県名古屋南区滝春町10-3

概要:

1939年に大同製鋼株式会社(現・大同特殊鋼株式会社)の出資により、前身となる大同工業学校を創設。1962年に大同工業短期大学、1964年に4年制大学となる大同工業大学へ移行。2009年に大同大学に改称。産業界との深い連携に定評がある同校では、産学・学科・学年の垣根を越えて交流する社会参画型授業「D-Learning」「X-Learning」、イタリアのミラノ工科大学と課題を共有しながら解決を目指す「C-Scape」などのプログラムが展開されています。



大同大学 情報学部
情報デザイン学科 学科長
横井健二氏(プロダクトデザイン専攻)



大同大学 情報学部
情報デザイン学科 教授
横山弥生氏(プロダクトデザイン専攻)



大同大学 情報学部
情報デザイン学科 教授
杉本幸雄氏(メディアデザイン専攻)

工学部と情報学部および2研究科(大学院)を持ち、3,500人超が学ぶ大同大学。1939年に大同製鋼株式会社(現・大同特殊鋼株式会社)の出資により大同工業学校として設立。中部地区の産業界31社の要請に応え短期大学、工業大学への移行を経て、2009年に大同大学と改称されました。その創設の歴史から産業界との深い連携に定評がある同学では、産学連携や学科・学年の垣根を越えて課題に取り組む社会参画型授業や海外の名門校との交流授業など、独自の実践的教育プログラムが展開され、ものづくりの現場で求められる有用な技術を持った人材を育成しています。ソフトウェア環境においても、ETLA(高等教育機関向け包括ライセンス契約)により最新のAdobe Creative Cloudアプリケーションを全学導入した、同学の情報学部教員と企画調整部職員の方々に教育への取り組みをうかがいました。

"実学"を通して社会で求められる技術を身につける

創立当初より、企業の第一線で活躍するプロフェッショナルを教員に招き、社会で通用するスキルが身につく実践的なカリキュラムを組んできた大同大学。「教授や講師の多くが企業出身者で占められており、社会や企業で求められている有用な技術を持つ人材を育てています。また"実学"を重視するがゆえに、単一の学問を追求してだけでなく、さまざまな分野の知識や経験を身につけた、多様化する社会に求められる人材育成を目指しています」と企画調整部部長の鹿島孝之氏は語ります。

一般的な大学であれば、1、2年目は教養を学び、3、4年目に専門へと特化していくのに対し、同校では1年生から教養科目と合わせて専門科目を学ぶ環境が設けられています。情報デザイン学科 学科長の横井健二教授は「大学受験を目標に学んできた普通科高校出身の学生の場合は、デザインスケッチや製図など大学で学ぶための基礎が身につけていないことも多く、いかに効率よくスキルを身につけさせるかが、専門科目を指導するうえでは重要です。4人の専任教員がお互いに授業の進捗具合や学生の理解度についての情報共有を図りながら、毎年カリキュラムを見直しています」と話します。

また同学では、ETLAによるCreative Cloudアプリケーションの導入のほか、3Dプリンターやレーザー加工機といったラピッドプロトタイプング設備など、最新設備を積極的に導入しています。現場の最前線で活用されている機器を学生たちが使いこなせるため、企業からの反応もよく、就職率の高さに反映されているといいます。

産学の垣根を越えた連携と複合的なスキルの修得

プログラミングからWebやグラフィックのデザイン、映像制作などを学ぶ情報学部のメディアデザイン専攻では、上岡和弘教授を中心に愛知ブランド企業4社のPR動画を制作し、YouTubeを通して配信しています。「実際に企業を訪ね、打ち合わせを重ねることから、取材撮影、編集といった制作過程すべてを学生が行いました。作品制作の一連の流れを経験することは学生にとって大きな糧となります」と情報学部 情報デザイン学科の杉本幸雄教授。

メディアデザイン専攻では、多様化するメディアに対応できる人材を育成するために、Adobe IllustratorやAdobe Photoshopなど、グラフィック制作の基本となるアプリケーションの習得を基礎科目に加えています。「現場では映像処理だけでなく画像やサウンド、グラフィックについての複合的な知識と技術が求められています。専門的な知識に加え、周辺分野のツール操作の基礎が身につけば、社会に出た際に大きな武器になります」と杉本教授は話します。

また同学科では、卒業制作を下級生がサポートすることが積極的に行われています。このような実制作の体験を積み重ねることで、講義だけでは身につかないスキルを学びます。「有用な技術者を養成する」という建学の精神を受け継ぐ同学では、学生に座学では修得が難しい経験を多く積ませ、卒業後に即戦力として活躍できる人材育成を実行しています。

積極的な他校との交流と、深く根付く現場主義の考え

産業界だけでなく国内外の大学とも強い連携を持つ同学では、2007年より建築家やデザイナーを数多輩出しているイタリアの国立大学・ミラノ工科大学との教育交流プログラム「C-Scape」(シースケープ)を実施しています。このプログラムは、実在の街や建築物を対象に課題を共有しながら解決を目指すもの。当初は同学の建築学科との交流から始まったものですが、プロダクトデザイン専攻も参画。2014年度からミラノの運河地域の再開発をテーマに、同専攻の学生らがデザインする取り組みを行っています。また同年度、プロダクトデザイン専攻独自に1名の専任教員をミラノ工科大学に派遣し、連携ワークショップを実施。この成果は2015年5～10月に開催されるミラノ国際博覧会で展示予定。今後さらなる交流が期待されています。

学生に、1年生から現場の最前線と同じ設備環境の中で教養科目と並行して専門科目を学ばせ、企業のプロと協業する体験や海外の学生との交流で刺激を受ける機会を設けています。学生の能力を大学で学んだこと以上に開花させようとしていることがうかがえます。このような姿勢を、同学では現場主義と考えています。また情報デザイン学科の横山弥生教授は、学び方が分からない学生に対して、まずは真似をすることを勧めていると話します。「クリエイターにはオリジナリティが必要ですが、それ以前にオリジナリティを生み出すための学び方やプロセスそのものが分からない学生も多いのです。模倣から始めることで、作品のよさや技術についての発見があり、それが創作へと繋がっていくと考えています」。横山教授はまた、1年生の授業の最初に「グラフィカシ」(グラフィック+リテラシの造語)について教えています。「まずはPhotoshopやIllustratorを使いこなせるようになりなさいと伝えています。なぜならグラフィックには国境がなく、誰でも理解できるため世界を視野に入れた幅広い交流が持てるようになるからです」

現在学内の全パソコンで最新のCreative Cloudアプリケーションが使用でき、発想を形にできる環境が整えられている同学。制作のみならず、出来上がった作品をいかに見せ、伝えていくかが重要、と教員の面々は口を揃えます。なぜなら、研究が専門的になればなるほど、異なる分野のクリエイターからのフィードバックが貴重な意見となり、作品や研究の質的向上に繋がるから。作品制作のみならず伝達の有用性を伝えるなど、企業の第一線で活躍してきた教員陣だからこそその講義が、同学では日常的に行われています。

最新技術は、人間の気持ちに寄り添う表現への手段

大同大学の創学以来の理念のひとつに「産業界の発展に貢献すること」があります。この考えのもと、惜しみない設備投資や幅広い産業界との活動はもとより、学科を超えた連携も積極的に行われています。たとえばインダストリアルデザインを専門とする横井ゼミの学生が作品撮影を行う際には、映像を専門とする杉本教授に教えを乞い、画像についての指導が行われたこともあったそうです。指導教員同士がコミュニケーションを図り、一丸となって学生の指導、サポートに当たる姿勢は同学の特徴と言えるでしょう。

また2014年12月、杉本ゼミで学ぶ4年生の鍋倉康佑さんが監督を務めた作品が、小説紹介のための国際的な映像コンペ「カットノベルアワードSEASON4」にて最優秀賞を受賞しました。このように同学の学生に対する徹底した教育の姿勢は、着実に実を結んでいます。



大同大学 法人本部
企画調整部 部長
鹿島孝之氏



大同大学 法人本部
企画調整部 情報室 室長
松下賢則氏



大同大学 法人本部
企画調整部 情報室
堀木俊宏氏

使用したアドビ製品

・ Adobe Creative Cloud

製品活用の主な利点

- ・ 制作の現場で使われている最新のソフトを学生が修得することで、卒業後に即戦力として活躍しやすくなる
- ・ 世界で通用するグローバルスタンダードなツールのスキルを学生が身につけられる
- ・ あらゆるクリエイティブな発想を形にすることができるようになる

製品に関する詳細は

<http://www.adobe.com/jp/jos/education/admin/etla.html> をご覧ください。

お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー(AAD: Adobe Advanced Dealer)でお買い求めください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビ システムズのホームページ(<http://www.adobe.com/jp/>)で入手できます。アカデミック版および教育機関向け販売プログラムに関する詳細は、アドビ アカデミック コールセンター (tel.03-5350-7133) へお問い合わせください。

アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー
<http://www.adobe.com/jp/>

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA
www.adobe.com

Adobe, Adobe logo, Creative Suite are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated, in the United States and/or other countries.
© 2015 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan. ASJST1288 1/15

